

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：水稻の生育状況（7月15日現在）について

発信日：2021年7月27日

1 内容

平年値(2011～2020年までの過去10年平均)と比べ、7月15日現在の水稻の生育状況は以下の表1のとおりです。

表1 水稻の生育状況(7月15日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	6月上旬*	やや長い	同等	同等
	6月中旬**	やや長い	同等	やや薄い
キヌヒカリ	6月上旬	長い	やや多い	同等
	6月中旬	やや長い	同等	同等
[参考]				
てんこもり***	6月上旬	やや長い	多い	同等
	6月中旬	やや長い	多い	やや薄い

*2014～2020年までの過去7年平均との対比 **2015～2020年までの過去6年平均との対比

***2018～2020年までの過去3年平均との対比

2 留意事項

(1) 気象

気象庁が7月15日に発表した1か月予報では、気温は「ほぼ平年並」、降水量は「平年並か多い」、日照時間は「ほぼ平年並み」となっています。

(2) 出穂期

7月15日現在の生育状況と今後の気象予報から判断すると、出穂期は平年並みからやや早いと考えられます。

(3) 追肥

追肥は、玄米の充実促進と外観品質向上のために実施します。

追肥時期は幼穂の長さから判断し、施用量は水稻の生育状況や品種、水田の状況により調整を行います。5月下旬植えの「はるみ」や「キヌヒカリ」は追肥の施用時期になりますので、幼穂長を確認してから施用しましょう。※幼穂長の測定方法は、次のページを参照参考までに、基準となる追肥時期と施用量は以下のとおりです。

◎追肥時期と施用量

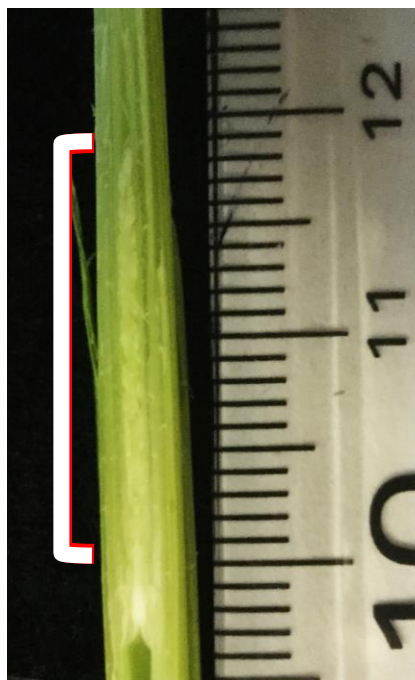
はるみ	時期：出穂期の15日前頃 【幼穂長 15～20mm 程度】 施用量(10a 当たり)：窒素成分 2 kg (例『化成肥料 17-0-17』：約 12 kg)
キヌヒカリ	時期：出穂期の20～15日前頃 【幼穂長 2～20mm 程度】 施用量(10a 当たり)：窒素成分 2 kg (例『化成肥料 17-0-17』：約 12 kg)
さとじまん	時期：出穂期の15～10日前頃 【幼穂長 15～80mm 程度】 施用量(10a 当たり)：窒素成分 2～3 kg (例『化成肥料 17-0-17』：約 12～18 kg)
てんこもり	時期：出穂期の20日前頃 【幼穂長 2 mm 程度】 施用量(10a 当たり)：窒素成分 2～3 kg (例『化成肥料 17-0-17』：約 12～18 kg)

◎施用時期及び施用量の判断

- ・日照不足や、草丈が長い場合は施用時期を少し遅らせます。
- ・乾田・漏水田、堆肥等の有機物が少ない場合は施肥量を少し多くします。

○幼穂長の測定方法

1. 株の中で草丈が一番長く、太い茎を根元から抜く。
2. カッター等で茎を縦方向に切る。
3. 幼穂の基から先端までの長さを測定する【写真1】
※手を切らないように注意！



幼穂長の計測【写真1】

(4) 水管理

穂ばらみ期から登熟初期（出穂期の15日前から出穂期10日後まで）の期間は、稲が最も水を必要とする時期なので、水を切らさないように注意します。ただし高温時は、かけ流しかん水等を行い、高温障害による白未熟粒の発生を回避します。

(5) 病虫害防除

○スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）【写真2】

ピンク色の卵塊【写真3】を水田内、畦畔・水路周辺で確認したらすべて潰します。水田内への侵入・隣接水田への被害拡大を防ぐために、水口・水尻に6～9mm目合いの網を設置して捕殺します【写真4】。



稲株元のスクミリンゴガイ【写真2】



スクミリンゴガイの卵塊【写真3】



網の設置の様子【写真4】

○斑点米カメムシ類【写真5】

斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底することが有効です。ただし、出穂期頃の除草は、カメムシ類を水田に追い込むことになるため、畦畔雑草の除草は出穂10日前までに必ず終わらせます。



ホソハリカメムシ【写真5】

○イネツトムシ（イチモンジセセリ）【写真6】

イネツトムシの防除適期は、粒剤でふ化最盛日の5日前、その他の薬剤でふ化最盛日から5日後程度です。今年の県内各地のふ化最盛日は、平年並みの7月18～24日の予測です。県内各地域の予測ふ化最盛日は病虫害防除部のホームページを参照してください(病虫害情報 号外第6号)。



イネツトムシ【写真6】

左上;被害状況 右上;卵
左下;成虫 右下;幼虫

(6) 農作業中の熱中症に注意しましょう！

日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょ。汗で失われた水分を十分に補給するとともに、帽子の着用や、汗を発散しやすい服装に心がけましょ。

高温多湿の環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高まりやすいです。屋外で人と十分な距離を確保できる場合は、マスクを外しましょ。マスクを着用する場合は、のどが渇いていなくてもこまめな水分補給を心がけ、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的に外して休憩しましょ。

台風などの大雨の際に、水田等を見回することは大変危険です。気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、安全な状況になるまでは行わないようにしましょ。

【参考】

表2 農業技術センター（平塚市）における追肥時期等の過去10年平均値

作期	品種名	追肥時期	水を切っては いけない期間	出穂期
5月 27日 植	キヌヒカリ	7月17日～22日頃	7月22日～8月16日頃	8月6日*
	さとじまん	7月29日～8月3日頃	7月29日～8月23日頃	8月13日*
6月 7日 植	はるみ	7月26日頃	7月26日～8月20日頃	8月10日
	キヌヒカリ	7月20日～25日頃	7月25日～8月19日頃	8月9日
	さとじまん	8月1日～6日頃	8月1日～8月26日頃	8月16日
	てんこもり	7月26日頃	7月31日～8月25日頃	8月15日**
6月 17日 植	はるみ	8月1日頃	8月1日～8月26日頃	8月16日***
	キヌヒカリ	7月26日～31日頃	7月31日～8月25日頃	8月15日
	さとじまん	8月4日～9日頃	8月6日～8月31日頃	8月21日
	てんこもり	7月30日頃	8月3日～8月29日頃	8月19日**

- ・ 出穂期約15日前～出穂期10日後までの約1カ月間は、水稻が最も水分を必要とする時期であるため、水田の水を十分に保つようにする。
- ・ *；5月下旬植については、2002～2006年（5年平均）のデータに基づく。
- ・ **；てんこもりについては、2017～2020年（4年平均）のデータに基づく。
- ・ ***；6月中旬植の「はるみ」については、2011～2012、2015～2010年（8年平均）のデータに基づく。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課
平塚市上吉沢1617
TEL：0463-58-0333 内線382～384
FAX：0463-58-4254